



セタ 1993年

郷土出身
アーティスト
画家 中村秋夫
山里物語より

昭和の 暮らしから 遠く離れて

そこには、親しみやすい顔と
つつましい飛騨の暮らしがあった

2026年10月1日(木) ↓ 18日(日)

午前10時～午後5時 休館日：毎週火曜日

入場／無料

飛騨・世界生活文化センター

主催 高山市 共催 飛騨・世界生活文化センター 指定管理者 飛騨コンソーシアム
問合せ先／高山市生涯学習課 電話(0577)35-3155

感謝
おかげさまで
90年

高山市制施行90周年記念事業
令和8年高山市所蔵美術品展

中村秋夫略歴

大正14年（1925）

岐阜県大野郡大八賀村（現在の高山市）で出生

昭和18年（1943）

岐阜県高山市立上枝青年学校教員

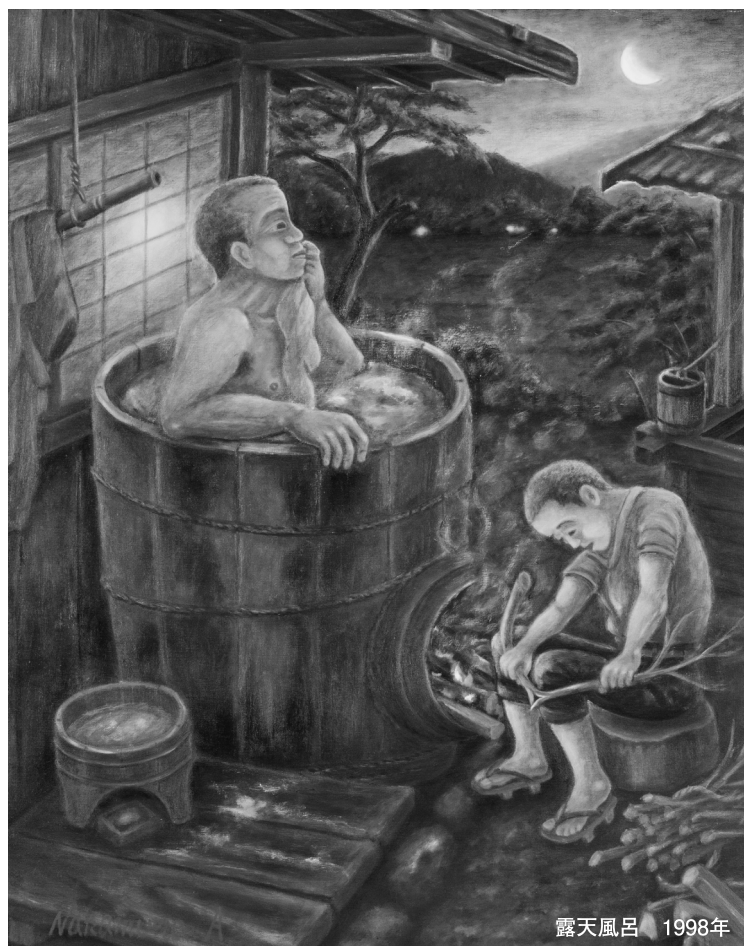
昭和64年（1989）

油絵の手習いを始め、平成3年より故郷シリーズ、「昭和初期の農民の暮らし」の制作に着手。

令和元年（2019）逝去



自画像 1989年



露天風呂 1998年

画家 中村秋夫 山里物語より 昭和の暮らしから 遠く離れて

郷土出身

アーティスト



梅雨 1995年

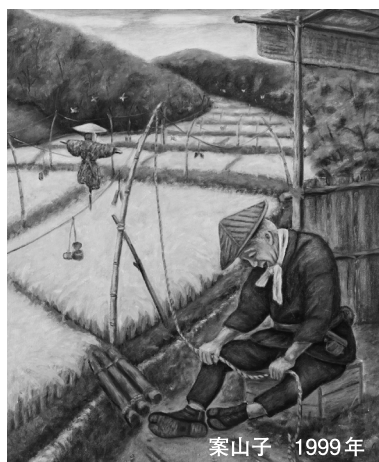
作者のことば ―画集「まえがき」より

定年後、油絵の手習いを始めました。画題を、生まれ育った故郷、飛騨高山の「農民の暮らし」をテーマに選んだことが幸いして興味がわき、生涯のライフワークにつながりました。

昭和初期の農家は、今日では想像もつかないような生活でした。厳しかったからこそ、思い出がさらに募ってくるのかもしれない。今となると、豊かな大自然や風物、そして村人の習わしや温もり、哀感など、何もかもが良い思い出ばかりとなっています。年を取るにつれ、故郷への恋しさが強くなり、臉に浮かぶあの頃の暮らしを絵にしていくなのは、とても楽しい時間でした。

ここに描かれた田舎の暮らしは、もう見られない風景ばかりですが、往時の農村生活の実情として参考にしていただき、絵から郷愁や懐古など、心になにかを感じてくだされば幸いです。

画集「山里物語―飛騨高山 昭和の農家百景」
故・中村秋夫



茶山子 1999年

高山市制施行90周年記念事業として、市が所蔵する美術品の中から、昭和の高山の風景を数多く描き残された郷土出身の画家・中村秋夫氏の作品を展示公開いたします。

主催 高山市

共催 飛騨・世界生活文化センター

指定管理者 飛騨コンソーシアム

問合せ先／高山市生涯学習課

電話(0577)35-3155